

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)KICONA松原店新築工事	階数	地上6F
建設地	大阪府松原市別所	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,745時間/年(想定値)
建物用途	物販店、集会所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年10月 予定	評価の実施日	2023年12月27日
敷地面積	10,366 m ²	作成者	山川 雅也
建築面積	4,919 m ²	確認日	2023年12月27日
延床面積	20,381 m ²	確認者	山川 雅也



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
外観の色彩については、基調色に彩度を抑えた色を使用し、アクセント色に活気のある色を使用することで、街並みに調和させ、地域性及びアメニティの向上に努めた。	(特記事項なし)	
Q1 室内環境 有害物質の少ない建材を使用し、十分な換気に努め、室内空気汚染の低減に配慮した。	Q2 サービス性能 バリアフリー等の機能性を考慮し、建物全体としての耐久性及び更新性を高めるように配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) (特記事項なし)
LR1 エネルギー 空調や換気、照明等の設備機器については、エネルギー効率を高めるよう配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水等を考慮し、水資源保護に努めた。	LR3 敷地外環境 駐車・駐輪スペースに配慮し、交通負荷の抑制に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)KICONA松原店					
	建設地	松原市別所					
	用途/区分	集会所 工場 物販店					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					2	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.0	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.9	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	2.1	2
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		